



て説明していただきました。また、来日後にそう言った被害に遭った時に相談できる窓口を紹介していただきました。3日目の午前中は、3グループに分かれ母子への家庭訪問を行いました。午後は、2人一組になり母子の家でホームステイをしました。この日はホームステイ先で一泊し、母子達と一緒に時間を過ごしていただきました。違法エージェンシーを通してまで来日を懇願する母子達のフィリピン生活の現状を見ていただける良い機会だったと思います。4日目は、初めての試みであるダバオ市サマール島での島めぐりを行いました。その日は少々雲の厚い日でしたが、海も穏やかで島めぐりには適したお天気となりました。サンゴ礁が群生する場所で泳いだり、ココナツの木の下で昼食を食べたりととてもゆったりとした時間を過ごし、拡大し続けるJFC母子人身売買問題の今後を考え続けるツアー中、少しリラックスした時間を持つことができました。ダバオでの沢山の経験を踏まえ4日目はマニラに戻りました。この日は、マニラ市イントロムロス内にあるカトリック司教協議会(CBCP)のもとに設置されている移住・移民者委員会

(ECMI)、JFCネットワークとも協力関係にあるフィリピンNGOバティスセンターと共に、JFC人身売買問題やそういった被害に遭わないための安全な来日について話し合いを行いました。また、実際に日本で被害に遭った母子達も参加し、日本での被害状況についても詳しくシェアしてくれました。現在この母子達はバティスセンターがカウンセリングなどの支援をしており、フィリピン生活に戻れるようにサポートされています。



バティスセンター事務局長のジーナ・ヤップさんは、「JFC母子達の人身売買被害は私達も十分に見てきており、それについての話は今まで十分に話してきた。日本はJFCにとって自国であり、来日する事は私達には止められない。そんな彼らが安全に来日する道を考えなくてはならない。」と言われていました。移住・移民者委員会代表のレスティ・オグシメル神父も、この課題について委員会で話し合い、今後良い対策やアイデアを出し合うため定期的な会合を一緒に持つことを提案してくださいました。ツアー参加の弁護士の方々も被害に遭った母子達へ日本側で法的にどういった対応ができるのかケーススタディをしてくださる事になりました。

今年のツアーの前半は、フィリピン在住のJFC母子達の現状や彼女達が持つ問題を理解し、後半はその現状が引き起こす人身売買について学び、今後どのように対応・支援していくべきなのかを話し

合う充実した時間を持つことができました。また、JFC母子支援のため、フィリピンカトリック司教協議会、日比NGO、アカデミックな方々、日本の弁護士の方々、ジャーナリストの方々、学生の方々との協力関係を築く機会になりました。ご参加くださった皆様、本当にありがとうございました！今年参加できなかった皆様、ご心配いりません！来年もツアーを開催予定ですので、ぜひご参加ください！

